



本の紹介

ご飯が食べられなくなったらどうしますか？
永源寺の地域まるごとケア

花戸貴司／文、國森康弘／写真

高齢化率30%を超える滋賀県永源寺地域で在宅医療に取り組む花戸医師は、往診や外来で診る患者全てに「ご飯が食べられなくなったらどうしたいですか？」「寝たきりになったら、病院か施設に入りたいですか？」と繰り返し問いかける。意思表示ができるうちは何度も確認する。そして、その人の意思に沿うように介護職、薬局、ご近所さん、ボランティア、福祉行政などと連携して生活を見守り、いよいよ意思表示ができない状態になると、その人の「願い」がかなう「看取（みとり）」をする。永源寺地域では、重度の認知症でも進行がんでも脳腫瘍の少年でも、希望すれば、自宅で家族や友人に見守られ静かに命を終える。花戸医師は読者に「人生の最終章を自分で決めなくていいのか」と問う。

本書は2つの厳しいテーマを読者に突き付ける。1つは、老いを治す手立ては存在しないということ。「老」を

住んでい る地域で「互助」を蓄えよう



▽農山漁村文化協会
本体1800円＋税

「病」にすり替えたところで死は避けられない。もう1つは、永源寺地域の在宅医療・介護を可能にしているのは「お金の対価として提供されるような公的（フォーマル）なサービスとは違う、ご近所さんやボランティアさんといったような非公式（インフォーマル）なつながり」だということ。それは田舎に住み続けた人たちが「煩わしさとひきかえに蓄えてきた」もので、退職後に都会から移り住んでも「そんなに甘くない」そうだ。「今、住んでいる地域で『互助』を貯（た）めていく生活を」と花戸医師は言う。
(嘉智子)